

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|-------------|-----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|---|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEC1110 | 生活環境論 | 1 | 身近な生活環境問題について考察を行い、我々の生活様式や考え方といったものが生活環境に密接に結びついていることを知る。また、生活中のモノやデキゴトをどのように意識して捉えているかといった環境観や価値観が生活環境問題を議論する際に重要となることを学習する。 | 生活環境にある疑問や課題を自ら発掘し、将来の研究において自ら問題設定ができる能力を養うことを目的とする。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| 22UHEC1120 | 基礎造形実習 | 1 | 幾何学の基本法則を効果的に用いること。幾何学図形の特徴と構成についての基本法則を身につける。 | イメージやアイデアを形態または立体によって表する方法を学ぶ。 | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHEC1130 | 生活科学 | 1 | 生活環境学科での学習において必要となる基礎的な科学的知識の習得を目的とし、科学的な視点で生活環境中の様々な現象を捉える能力を養うことを目指す。 | 今後の専門科目の学習や研究で必要となる数学、化学、物理、および生物の基礎的な知識について習得することを目標とする。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |
| 22UHEC1140 | ファッションビジネス論 | 1 | ファッションビジネスの構造を学び、そこに存在するファッションビジネス特有の機能を理解する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | ファッションビジネスの機能を理解し、日々変化するアパレル業界への対応力を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | ◎ | | | |
| 22UHEC1150 | アパレル構成学 | 1 | 最も身近な生活環境を作り出す衣服について、人間にとって着心地の良い衣服とは何かという理念を持って、種々の観点から衣服の構造の原理を学び、衣服設計における基礎的知識と共に応用能力を養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | この科目は生活環境学科を学ぶ上で6コース共通科目であり、専門科目として広い視点からアパレル全般について学び、毎日着用している衣服について専門的立場から分析ができるようになることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| 22UHEC1160 | 住居学 | 1 | 住まいのあり方を学ぶ基本として、住居の中で行われる生活行動や各生活行動からみた空間のあり方、健康で快適な住まい方および住まいの管理方法を学び、これからの住まいについて考える。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | これからの望ましい住まいのあり方を考えることができる。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |
| 22UHEC1170 | 建築概論 | 1 | 我々の身の回りの生活環境を形作っている建築、まち、都市とはなにかを理解し、豊かな生活環境の創造にとって重要な建築・都市空間のデザインの手法について理解を深めることを目標とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 建築、都市の持つ様々な特質をその背景や意義などを含めて理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | |
|------------|----------------|-----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|--|-----------|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | | | | |
| 22UHEC1180 | 基礎・設計製図演習 | 1 | 建築、空間設計において、設計図面はデザイン意図を他者に伝えるための重要な手段であり、さらには優れた建築・空間を理解するには、図面を読み取る能力が必要である。この科目では、設計製図における基礎知識と表現技術を学び、図学、製図法、空間の各部位、構造、スケールについての理解を深めることを目的としている。 | 次学期以降の設計実習に必要な基本的な製図知識と技術を習得し、各自が考案した小空間を設計図面（平面、断面、立面図）、透視図、模型で表現できる。 | | ○ | | ◎ | | | ◎ | | | | | | |
| 22UHEC1190 | 生活科学演習 | 1 | 実験を含む演習を行い、これからの4年間に生活環境学科で学ぶために必要な科学の基礎的な知識・技術や心構えを体得するとともに、科学的事象について考察を加えてまとめる能力を身につける。 | 現象を科学的に考え、定量的にとらえる能力を修得する。科学や数学の基礎知識について演習をとおして学ぶとともに、基本的な器具の取扱いや試薬の調製などの実験に関する技能を身につける。 | | ○ | | ◎ | | | ◎ | | | | | | |
| 22UHEC1200 | 服飾デザイン論 | 1 | 今日の服装は多様化し個性化が求められている。服飾デザイン論では衣服をデザインする側、またそれを選択する側として、服飾デザインの基礎を系統的に幅広い観点から学ぶ。また衣服の主流を占めているアパレル製品のデザインについても理解を深める。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 学生は服飾デザインに関して3つの目標到達に取り組む。 1. 服飾デザインにおける用と美の融合を分析し、美的側面を認識する能力を獲得する。 2. 造形要素やディテールに関する知識を習得する。 3. 服飾デザイン・企画に関するファッションビジネスの基礎知識を習得する。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | |
| 22UHEC1210 | アパレル構成学実習 I | 1 | 人体を被う衣服の一連の製作過程を学び、被服構成の知識や技術を修得する。またこれらを活用発展させる能力、時代の持つファッション性や美的感性、さらに既製衣料の選択眼も養うことを目的とする。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 原型を使用した衣服パターンの作図と衣服の組み立て工程の理解、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性への理解、基礎縫製技術、縫製実習にかかわる機器類（工業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用が習得ができることを到達目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | | | | | | ○ | | ◎ | ◎ | | |
| 22UHEC1220 | インテリアデザイン論 | 1 | 快適な生活環境を創造する上で、インテリアデザインの果たす役割はとても重要である。この授業では、インテリアデザインの概念の発生から現在にいたるまでの変遷を検証し、インテリア空間を構成している要素とその組み合わせの仕組みを学び、第2の衣服としてのインテリアデザインのプロセスを理解する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | インテリアデザインに必要な基礎知識を習得し、そのプロセスと役割を理解する。ヒューマンスケールからの発想が環境づくりに生かされて、人間を包み込む空間すべてが対象にされることを認識する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | | | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| 22UHEC1230 | グラフィックデザイン基礎実習 | 1 | グラフィックデザインの手法を用いて作品を制作しながら、デザイン概念を理解する。 | 様々な表現に活かせるグラフィックデザインの基本スキルを身につけるとともに、デザイン全般における基礎的な技術力・表現力を修得する。 | | | | | | | | | | ○ | | ◎ | ◎ |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|-----------|-----|--|---|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEC1240 | 環境共生概論 | 1 | 近年、環境保全の重要性が高まっていることは周知の事実であるが、環境を守ることがわれわれの生活の豊かさやどう関係するのかといった根本的な問いに向き合う機会はそれほど多くない。本講義では、環境に関連する基本的な事柄を学んだ上で、われわれが生活環境の改善に取り組んでいく際に、どのように環境問題と関わっていくべきか議論・考察することを目的とする。 | 環境問題は独立した問題ではなく、生活に密着した問題であるということを理解し、その上で生活の利便性と環境負荷のバランスをとった生活の提案や改善を議論していくための知識や方法論を修得する。 | ○ | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| 22UHEC1250 | 環境デザイン演習 | 1 | 居住空間や公共・商業空間、景観など、屋内外の環境を健康的で快適にデザインするために、環境を客観的に見る力を身につけることを目的とする。 | 空間の心理評価法、機器による測定法を中心に、環境を客観的に把握するために必要な技術の基礎を習得する。 | | ◎ | | ◎ | | ○ | | | | |
| 22UHEC1260 | 建築設計基礎実習 | 1 | スケール感覚を鍛えた上で、様々な空間を特徴づける空間構成要素への理解を深め、小空間を設計するプロセスを学ぶ。加えて、基礎・設計製図演習で習得した製図技術、立体表現スキルの定着を図る。 | 空間を構成している要素、素材を理解し、適切なスケール感覚を身につけている。空間の構成要素がもたらす効果を理解し、要素を使って小空間を立案、具体化できる。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHEC1270 | まちづくり基礎演習 | 1 | まちについての基礎的な理解を深める。まちの歴史や成り立ちを学び、まちの魅力や課題を発見する方法を習得する。 | まちづくりの基本プロセスを理解する。まちづくりのための基礎的調査方法を習得する。まちの魅力や課題を発見しプレゼンテーションする方法を習得する。 | | | | | ◎ | ○ | | | | |
| 22UHEC2110 | 色彩学 | 2 | 色彩の表示方法を中心として、色と光を科学的に捉えることを学ぶ。プロダクトや空間の色彩を計画するための基礎を習得することを目標とする。 本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 色と光を科学的に捉える力をつける。日常生活環境における様々なものの色彩を適切な表色系を用いて表現すること、および、表色値から色を想像できるようになることが到達目標である。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |
| 22UHEC2120 | 統計学 | 2 | 近年、統計的にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることがますます必要となっている。本科目では、統計についての理論面を学ぶことを目的とする。 | データ分析や研究計画の際に必要な、標本抽出や母数の推定などの基礎的な用語、各種統計量の意味、帰無仮説や有意確率など検定で用いる基本的な概念、および数学的な背景について理解する。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |
| 22UHEC2130 | 統計調査演習 | 2 | 近年、統計的にデータ分析を行うことや分析された結果を適切に読み取ることがますます必要となっている。本科目では、実際にPCで統計解析を行う際の手順を学ぶ。 | 集計されたデータに対して基礎統計量を計算し適切な図表として表現することや、簡単な検定や回帰分析を行うことができる能力を習得する。 | | | | | ◎ | | ◎ | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---------|-----|--|---|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|---|--|---|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | | | | | |
| 22UHEC2140 | 阪神間文化論 | 2 | 私たちが学ぶ、「阪神間」という地域では、「阪神間モダニズム」という用語が言及されることも少なくなく、この「モダニズム」が一つの特性となっている。「阪神間モダニズム」のなかで展開されてきた芸術・音楽・ファッション・生活スタイルなどを、阪神間モダニズムを象徴する建築でもある甲子園会館（旧甲子園ホテル）のような実際に現存する「阪神間」という空間において、フィールドワークを含めながら学びたい。 | 生活環境学を専門とする私たちが、身近な地域の生活環境を学ぶだけでなく、同時に「モダニズム」とは何かということを考えていくことによって、それぞれの創作にいかしていきたい。単なる地域の学習ではなく、これからの創造のための学びを目標としている。 | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEC3110 | 生活美学 | 3 | 日常生活の事柄やモノは、合理的・科学的に捉えられる一方で、趣味や好み、快適さのような精神的な決まりのつけ方によって落ち着きどころを得ている。この講義では、後者の立場から生活環境におけるさまざまな価値を発掘し、理解する。これらを通して、日常生活におけるプリミティブな思考と感性の実存性や豊かさを明らかにする。 | 総合的で有機的な日常生活の美学的探求のノウハウとともに、生活を探求することの喜びと輝き、豊かさを論じることができる人間性を身につける。関連情報について関心を高め、感性を磨き、生活環境を知識や理解のみならず五感で感じるようになることを期待する。 | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEC2150 | 生活文化演習Ⅰ | 2 | 身近な生活の中で、役立つ優れたデザインについて考える。 | 学生はデザインを構成するさまざまな要素を発見し、分析し、優れたデザインの美的構造を理解する。 | ○ | | | | ◎ | | | ◎ | | | | | | |
| 22UHEC2160 | 生活文化演習Ⅱ | 2 | 暮らしの中のモノについて理解を深める。そのために、普通の暮らしの中で実際に使われた生活財の背景にある生活文化を読み解く。また、近現代の名作といわれる家具・プロダクト製品について、その時代背景と作者の意図を読み解く。 | 暮らしの中で使われたモノおよび近現代の名作といわれるモノについて、ある目的に対して調査・分析をおこなう方法を修得する。さらに、そこから得た結果を考察し、自己の考えをまとめ、それらについて記述する方法を修得する。 | | | | | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHEC3120 | 生活文化演習Ⅲ | 3 | 生活文化を読み解くには様々な方法論が存在するが、その中で最も一般的かつ基本的な手法といえるのが、モノやコトの歴史を知ること、つまり、対象となるモノやコトの変化を時系列に並べ、何が変化し、何が変化していないかを調査によって明らかにしていくことである。この授業ではその手法の習得だけでなく、対象となるモノやコトに対し新たな知見を得ることを目的とする。 | 生活文化における情報の収集、整理、分析に必要な技術を習得することを目標とする。 | ○ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | |
| 22UHET2110 | 界面科学 | 2 | 衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことは重要である。この講義では、主に洗浄を中心に、界面の科学を理解することを目的とする。 | 洗浄を中心とした繊維製品のメンテナンス、製品の初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から理解できるようになることと、応用力をつけることを目標とする。 | | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | |
|------------|-----------|-----|---|--|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|---|--|---|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | | | | | |
| 22UHET2120 | 界面科学実験 | 2 | 衣生活や住生活を考えた場合、汚れを界面現象を利用して落とすことが必ず行われる。特に繊維製品のメンテナンスに関わる知識は極めて重要である。色や柄がいくらよくても、洗濯しにくかったり、洗うことで品質が低下しては困る。洗浄の主役は、界面活性剤である。ここでは、実験を通して、洗浄を中心に界面の科学をより深く理解することを目的とする。 | 洗浄や洗浄に関係する事象を、実験を通して、表面的ではない、本質的な理解に至ることを目標とする。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET2130 | 繊維学 | 2 | 衣服素材である繊維がデザインや被服の機能に与える影響は大きい。快適な衣生活のためには、繊維素材の種類や性能を理解し、使用目的にあった素材の選択ができる教養を身につけ、制作、取り扱いなどに役立つ幅広い資質を養う。 | 衣服を構成している素材である“繊維”の基礎知識を身につけ、豊富な繊維素材を目的に応じて自由に選択できる能力を養い、実生活の中で役立たせることを目標としている。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET2140 | 繊維科学実験 | 2 | 「繊維学」「繊維製品材料学」で学んできた知識を実験を通してより明確なものにする。また、実験方法を工夫・実行し、物の考え方を学び、レポートにまとめることは、日常の勉学においても有意義であり、実験の意義は大きい。 | 被服材料である繊維について、性質や適性を実験によって観察し、物事や現象の本質を理解する。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET2150 | 繊維製品材料学 | 2 | 被服やインテリア製品に要求される消費性能を把握し、糸、布、その他の被服材料に関して、製造プロセス、性能などの基礎的知識を習得する。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 繊維製品の織物や編み物、その他二次製品の組織や物理的性能を理解し、適材適所に応じて活用ができる能力を養い、無駄な消費を慎み、豊かで快適な生活が送れることに寄与することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET2160 | 繊維製品材料学実験 | 2 | 「繊維学」や「繊維製品材料学」で学んだ繊維、糸、布の構造や形態、特性や性能について、実験をとおして実際に視覚的に体験することで、繊維材料の知識をさらに深め、快適な衣生活に必要な実践的能力を身につける。また、テキスタイルアドバイザーとして活躍をする場合に、必要となる試験の原理と測定方法の習得も目的とする。 | 繊維製品に使用されている糸や布の構造や特性に関する試験の原理と正しい測定法を理解し、実際の現場で実施および応用ができる能力を養う。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET2170 | 工芸染色実習 | 2 | 工芸染色の様々な技法について、それぞれの特徴や制作方法を習得する。絞りや蠟ケツ、型染めなどの手法で染色物の制作を行う。これら実習を通して染色のデザインや技法の基礎力を修得し、様々な繊維製品の企画や生産などへの応用につなげることを目的とする。 | 日本の伝統的な工芸染色における模様表現の技法の特徴や染色方法を理解する。実習を通して絞りや蠟ケツ、型染めなどの基本的な技術を習得する。 | | | | | | | | ◎ | | ○ | | ○ | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---------------|----|--|--|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|--|--|---|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | |
| 22UHET2180 | 被服学総合演習Ⅰ | 2 | これまでに被服学に関する授業で学修した内容を振り返って統合し、専門分野に関する事例の解決能力や文章表現力の向上をはかり、社会で活用するための応用力を高めることを目的とする。 | 被服学に関する知識を整理して体系的に理解し、活用できるようになる。繊維製品品質管理士に合格できる水準の能力獲得を目標とする。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET3100 | 被服学総合演習Ⅱ | 3 | これまでに被服学に関する授業で学修した内容を振り返って統合し、産業界の実地見学や人的交流も通して、社会で活用するための応用力を高めることを目的とする。 | 被服学に関する知識を総合的に理解し、実社会で活用できるようになる。実社会の課題を解決したり、新規の提案を行ったりできる能力の獲得も目指す。 | | ○ | | | | | ◎ | | | | | | ○ | |
| 22UHET3110 | 衣 環 境 学 | 3 | 衣服は多くの機能を併せ持つが、その中で着心地・快適性は人間と関わってはじめて評価されるものである。ここでは、温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活についての理解を深めることを目的とする。 | 人はなぜ衣服を着るのか。衣服に何を求めるのか。若い女性にとっては特に、色やデザインなど審美的な要素が重要視されがちであるが、衣服の機能はそれだけではない。ここでは、衣服を人間の最も身近な環境として捕らえ、心地よい衣服を考え、衣生活において実践できる能力を育成することを目標とする。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET3120 | 衣 環 境 実 験 | 3 | 我々が今後も温熱的、衛生的に快適で健康な衣服や衣生活を形成するためには、衣服の特性や性能がヒトに及ぼす影響やヒトが感じる着心地、快適性を正確に評価し、その結果を研究や開発に活かすことが重要になる。その評価方法を習得し、「衣環境学」で学んだ知識をさらに深め、快適で健康的な衣服の研究・開発の基礎的実践力を身につける。 | 衣服がヒトに及ぼす影響や、ヒトが衣服を着用して感じる着心地、快適性を評価する方法を習得する。さらに、対象となるヒトの基本特性と心理・行動・生理反応との関係についても実践的に学び、人間にとって温熱的、衛生的に快適で健康な衣服の条件を理解する。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET3130 | 染 色 加 工 学 | 3 | テキスタイルアドバイザーとしても必要な、衣料品を始めとする繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わる基礎的な素養を得る。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。 | なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHET3140 | 染 色 加 工 学 実 験 | 3 | テキスタイルアドバイザーとしても必要な、繊維製品の染色や加工のされ方、その品質面を踏まえた取り扱いに関わることを、本質的な理解につながるよう、実験を通して学ぶ。ファッション製品にとって、色柄は重要な要素であるが、色あせや色落ちが起こっては困る。初期性能の維持、トラブルの原因について、原理から「わかる」こと、応用力をつけることを目指す。 | なぜ染まるかが、原理から理解できるようになること、そのことで、変退色などのトラブルの原因や防止につながる素養を得ることを目標とする。 | | ○ | | | | | ◎ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | |
|------------|-----------|-----|---|--|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|---|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | | |
| 22UHET3150 | 衣料分析法 | 3 | 身の回りにある衣料品は、性能を向上させるため改良改質され、さまざまな試験に合格したものである。その過程においても顧客からのクレーム処理においても、迅速・正確な分析が必要とされている。汎用の分析機器全般について理解力と応用力を養成することを目的とする。 | 科学的見地からクレーム処理、商品開発を担い得る基礎学力とデータの解析力を身につけることを目標とする。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | | |
| 22UHET3160 | 衣料分析実験 | 3 | 衣料分析学で学んだ機器分析法に関する知識をふまえて、観察・測定、解析をとおして理解を深めることによって、目的に応じた分析機器の選択・試料の調整法、機器の使用方法を身につけることを目的とする。さらに測定結果の取り扱いや解釈をとおして繊維や加工剤の構造と性質との関連を理解することを目的とする。 | 構造観察や測定を必要に応じて実施できるようになることを目標とする。すなわち、分析機器の測定原理を理解し、分析目的に応じた機器を選択できることおよび、機器を用いた実験を通して高分子物質や繊維、繊維加工剤などの鑑別ができるようになることが目標である。 | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 22UHET2170 | 品質管理 | 2 | グローバル化が進む今日、品質やその要求水準は多様化される傾向が強くなってきた。ここでは企業における品質管理の重要性を認識し、基礎的な品質管理の進め方、およびその手法についての理解を深めるとともに、アパレル産業における品質管理の骨格を知る。 | 現代、品質管理はどのように行われているのか、その手法を知るとともに、アパレル製品が製造流通段階を経て消費者の手に渡るまでに、企業の各部門でどのように品質管理が行われているかを理解する。また繊維製品のクレーム事例をもとに、品質管理の問題点について考える。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | | |
| 22UHET2180 | 消費科学 | 2 | 「消費科学」は生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える科学である。この科目はテキスタイルアドバイザーの資格科目であるので、衣生活の面を中心に消費を考え、生活者として、またアパレル分野で活躍する際に必要な考え方と知識を体系的に身につける。 | 衣生活を中心として消費者が望む品質を知り、消費者行動を理解する。また、繊維製品の生産・流通・消費についての一連の基礎的知識を修得する。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | | |
| 22UHET2190 | 消費生活論 | 2 | 高度情報化、消費のサービス化、グローバル化など社会経済情勢の著しい変化に伴い、多様化、複雑化する消費者問題の現状と課題を知り「消費者市民社会」の担い手としての資質を修得することを目的とする。 | 安全で快適な真に豊かな消費生活を営む能力・知識を得ることと併せ、社会の発展と改善に積極的に関与できるような「考え、行動する自立した消費者」としての資質を修得する。 | ◎ | | | | | ◎ | | | | | |
| 22UHET2200 | アパレル設計生産論 | 2 | 量産化されている既製服の設計・生産工程を理解し、その問題点や改良点を考える。 | 既製服の設計・生産に関する基礎的な知識を習得する。 | | | | ◎ | | | ◎ | | | | |
| 22UHET3180 | アパレル生産実習A | 3 | アパレルの工業生産における商品企画・設計・生産・品質評価・プレゼンテーションの各業務について、実習を通して理解を深め、分業体制でのコミュニケーション能力を身につける。 | アパレルの工業生産における各業務について理解し、分業体制で責任感を持った行動を取ることができるようになること、分業体制における情報伝達の工夫や努力ができるようになることを目標とする。 | | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHET3190 | アパレル生産実習B | 3 | アパレル産業のあり方、縫製工場の問題点・改善試案、作業改善の進め方、関連部署へのコミュニケーションのあり方等について自らの見解を確立する能力を養成する。 | 生産工程全般と分業体制でのコミュニケーションの取り方などについて常に問題意識を持ち、その改善方法に対して自らの見解を持った上で積極的に行動できるようになること。また、管理者としての視点も理解できるようになること。 | | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|---------------|-----|---|--|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEA2110 | アパレル構成学実習Ⅱ | 2 | 身体を包む衣服の造形について、パネルラインのワンピース制作を通して、切り替え線および身頃のウエストに合わせたスカート（またはパンツ）の作図、曲線（パネルライン）の縫製、ワンピースのあきの考え方などの基礎理論ならびに縫製技術を習得し、さらに応用能力を養うことを目的とする。 | 基本的な服種（アイテム）の制作を通じて、デザインから作図、縫製といった構成面を理解し、服飾全般の知識と技術を身につけ、様々なアイテムに応用・発展できる基礎力を養うことを目標とする。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| 22UHEA2120 | アパレル企画論 | 2 | アパレル業界における商品企画について、具体的な進め方、要点を事例の紹介や演習などを交えて、現実のアパレル商品企画を習得する。 | アパレル業界での、新規ブランド企画、商品企画、およびセールスプロモーション企画の基礎知識の習得。 | | | | ◎ | | | ◎ | | | |
| 22UHEA2130 | スタイル画実習 | 2 | スタイル画は、デザインを行うための作業ではなく、アパレルメーカーのあらゆるシーンで必要となるものである。例えば、「カタログ」等へは、ファッションスタイル画であり、「企画表」、「展示会受注ブック」といった資料作成の上では、ハンガーイラストといったものを描くことが、必要となる。スタイル画を学ぶことは、衣服表現の幅を広げられることにつながり、また、それらを読み取る力ともなる。以上のように、この科目では、2次元でのファッションデザインの表現が行えるよう、人体プロポーション、着装方法、ハンガーイラスト等を学びとることを目的とする。 | 人体ポーズの理解を含め、人が着て美しいと思う要素は何であるか、また、そのためにできる表現とは何であるかを学びとり、最終的には、デザイン行為を含めた、自由なファッションスタイル画を描けるようにする。 | | | | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHEA2140 | テキスタイルデザイン実習Ⅰ | 2 | テキスタイルデザインソフトを使用してデザインを行い、テキスタイルに要求されるデザインの特性について学ぶ。ファッション業界の現場で即戦力となりうる人材を育成する。 | テキスタイルデザインソフトを自在に操作することのできる技能を身につける。先染め織物の糸を考案し、織り方を工夫して設計をすることができる。プリント染色の図案を描くことができ、製品の種類や大きさに合わせたデザインができる。企画書を作成し、テキスタイルの特徴や商品化イメージを明確に伝えることができる。 | | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| 22UHEA3110 | テキスタイルデザイン実習Ⅱ | 3 | テキスタイルのデザインとは何か。それを成立させる為のデザインの基礎的理解をテキスタイルの技法を通じて進めながら、テキスタイルデザインの作品を構想し制作できるようにする。 | 文様のデザインの演習を通じて、デザインの基礎力のアップを目指す。 | | | | | | ◎ | | ◎ | | |
| 22UHEA2150 | ドラフティングCAD実習Ⅰ | 2 | 我々が身につける洋服はパターン（型紙）に合わせて生地を裁断し、それらを接合することにより立体を成している。必要パーツの作図方法を理解することは、洋服の機能性や生産機能を知ることにもつながる。本科目では、衣服を形作るパターンの基礎理論を理解し、ドラフティング（平面製図）によるパターン設計およびアパレルCADの操作方法を習得する。 | 我々が普段身につけている衣服には様々なデザインのものがある。大半のデザインのパターンは原型からの展開で起こすことが可能である。パターンの基礎理論、立体的な衣服を形成するための平面製図におけるパターン展開を学び、意図するデザインのパターン製図を行う力を養い、更にはアパレルCADソフトを用いたパターン作図の方法を習得することを目標とする。 | | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----------------|----|--|--|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEA2160 | ドラフティングCAD実習Ⅱ | 2 | 近年のアパレル業界では、パターン設計用のCADシステムの利用は不可欠である。本科目では、パターンの基礎理論を理解し、アパレルCADシステムを使用した衣服パターンメイキング技能を身につけ、応用する能力を養う。 | アパレル業界におけるコンピュータの活用方法を理解するとともに、基礎的なパターンメイキング操作を習得し、更にパターンの展開、工業用パターン作成、グレーディング展開、マーキング、3Dフィッティングまでを行い、オリジナルデザインのパターン作図能力の育成を目標とする。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 22UHEA3120 | ドレーピング実習 | 3 | ドレーピング（立体裁断）とは、モデルや裁断用ボディに直接生地を当てて、洋服の型を取る技術の名称である。その技術の習得は、簡単なものではないが、作業を通して、人体の特徴を知ることや、身体と衣服の関係を知らうえでは、大変都合の良い研究方法である。最終、美しい立体物を創ることが大前提ではあるが、本科目では、その過程に起こる、素材の動きのことや、裁縫道具の使われ方、または技術の名称など、ファッション表現の本流を学び取ることが目的である。 | ドレーピング（立体裁断）の習得により、布の特性である経地と緯地の動きの違いを理解する。また、衣服を構成するパーツの形状を確認することで、人体とパーツとの関係性を読み取る。技術の習得より、平面パターンでは創り得ないテクニカル性のあるデザインを創造し、表現できることを目標とする。 | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 22UHEA2170 | ファッションコンピュータ実習 | 2 | 近年、アパレル業界においてもコンピュータは幅広く利用されており、CG（Computer Graphics）によるデザインやプレゼンテーションが必須となっている。アパレル業界で広く使われているグラフィックソフト（Adobe Illustrator、Photoshop）を主に使用し、コンピュータを使ったビジュアル表現の方法を学ぶ。 | ハンガーイラストの作成およびスタイル画の着色にCGを活用できる。素材感の表現やカラーバリエーションの展開など、効率よく効果的に自らのデザインを表現する。 | | | | | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 22UHEA2180 | V M D 演習 | 2 | ファッションビジネスにおいて、VMD（ヴィジュアルマーチャндаイジング）の果たす役割は重要である。そこで、商品である洋服の知識を深め、店頭でのVMDの考え方や表現方法（ディスプレイ）を学び、商品構成、発想力、表現力、計画性、チームワーク等のスキルを身につける。 | ファッションビジネスの現場で、VMDに関して、実践的に活用できる能力を身につけることを目標とする。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | | | | | | |
| 22UHEA3130 | 服飾史 | 3 | 古代から現代までの服飾の様式と特徴を理解する。また、服飾の歴史は人間の生活の歴史でもあるため、衣服という身近な存在をとおして、自分がどのような文化的背景をもっているかを学び、人間の生活の理解を深める。 | 服飾の歴史を学ぶことによって、社会の特徴や文化的な特質について理解を深める。また、文字資料や図像資料の扱いを学び、資料の検索や収集の方法を身につける。 | ◎ | | | | | | ○ | | | | | | | | |
| 22UHEA3140 | 現代ファッション論 | 3 | 現在のファッションは偶然に行き着いたのではなく、意図的なコトによって誘導されたものである。そのコトが及ぼしたモノへの影響を学び、今後のファッション生活を考える。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 現代ファッションの流れを理解し、ファッション生活思考の基礎的な素養を身につける。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|--------------|-----|---|--|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEA3150 | ファッションデザイン演習 | 3 | ファッションデザインという行為について考える。ファッションデザインとは、スタイル画の中だけで行う行為ではなく、実際にモノをどう観て、どう形に整えていくのかという総合的な行為である。その表現方法として、シーチングでジャケットを一着組み上げる。そのモデルの基本の考えとなるものは、情報である。収集した情報を基に、ジャケットを提案する。この流れを具体的にこなしていき、「ファッションデザインとは？」の答えを導き出す。 | ファッション情報収集の方法をつかみ、そこからデザインへの導き方を習得する。また、それらを具体的な形にする方法として、パターン・縫製があることを理解する。結果、アパレル産業の機能の理解へとつなげ、ファッション産業をより深く理解できるようにする。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| 22UHES2110 | 生活デザイン論 | 2 | 学生は講義を通じて、生活を営む上で必要な要素としてのモノ・行為を取り出すとともに、それらを可能にする生活デザインの特性と機能について考える。 | 学生は講義を通じて次の2つの目標到達に取り組む。 1. 学生はモノ（ものづくり）のデザインとコト（仕組み）のデザインが生活の中で果たす役割を知る。 2. そのうえ、優れたデザインの特徴とは何かを考え、生活デザインの企画実践につなげる基本的素養とする。 | | | | ◎ | | | ◎ | | | |
| 22UHES2120 | 生活デザイン実習Ⅰ | 2 | 個人と、身体の一部としての物の関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。商品企画デザインの考え方や見方を理解する。 | パッケージデザインは今や商品のメッセージそのものといえるほどに重要な役割をはたしている。また、商品を包む・運ぶという物理的な機能も担っている。パッケージデザインについての調査・企画・提案をとおして、その魅力とコミュニケーションデザインとしての重要性を理解するとともに、アイデアを形にする技術力、人に伝える表現力を修得する。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| 22UHES2130 | 生活デザイン実習Ⅱ | 2 | 個人と、身体を包む物との関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。実素材による制作を通じて、素材の特性や加工方法を理解する。 | 実素材を使用した実物をデザイン・制作することで、構造・強度を踏まえた立体構造を理解するとともに、各テーマにおける人と物との関わりをより深く考察する。 企画、デザイン、制作のプロセスを通じて、プロダクトデザインの基礎を習得する。制作を通じて、素材の特性について理解を深めるとともに、加工方法と工具などの使い方を習得する。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| 22UHES3110 | 生活デザイン実習Ⅲ | 3 | 複数の人たちと物との関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。制作を通じて、素材の特性や加工方法を理解する。 | 日常生活における人・物・空間の関係についてより深く考察するとともに、インテリアデザインの考え方を理解し、そのプロセスに沿って、調査、調査資料作成、アイデア展開、モデル制作、プレゼンテーションの技術を習得する。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| 22UHES3120 | 生活デザイン実習Ⅳ | 3 | 複数の人たちと複数の物との関係をデザインすることで、より豊かな生活を提案する能力を養う。 | 複数の空間における、複数の人たちと、複数の物との関係を考察する。実践的な一連のデザイン技法を総合的に習得する。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| 22UHES2140 | デザイン技法Ⅰ | 2 | 実際に手を動かしながら、多種多様な素材に触れ、その特性を理解し、素材を加工するスキルを学ぶ。 | 様々な素材の特性を理解した上で、その特性に合致した作品を考案し表現する基礎的な技術を学ぶ。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |
| 22UHES2150 | デザイン技法Ⅱ | 2 | プロダクトデザインの考え方を理解し、そのプロセスに沿って作品を考え表現するスキルを学ぶ。 | 様々な表現技法の特性を理解し、スキルを学びながら作品を考案し制作する。また作品をプレゼンテーションするためのスキルを向上させる。 | | | | ○ | ◎ | ◎ | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | |
|------------|---------------|----|---|--|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|---|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | |
| 22UHES3130 | デザインリサーチ実習 | 3 | 調査の手法と、エディトリアルデザインの基本スキルを習得する。 | 物や空間をデザインしていくにも、社会的な問題や、その解決法の前例を調べる必要がある。また、デザインしたものは、適切な相手に存在が伝えられて、はじめて世の中に広まっていく。文献調査、観察法をはじめとした様々な調査手法と、グラフィックデザインやエディトリアルデザインを駆使した伝達方法を習得する。 | ○ | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | |
| 22UHES2160 | 視覚文化論 | 2 | 私たちを取り巻く様々な視覚文化を理解する。 | 近代以降の社会は、視覚偏重の社会と言われる。あらゆる物事において、視覚的要素は、ますます重視されている。タイポグラフィから映像に至るまで、いわゆる視覚文化（ヴィジュアル・カルチャー）と呼ばれる領域について、幅広く学んでいく。 | ◎ | | | | | | ◎ | | | | | | |
| 22UHES3140 | インテリアテキスタイル概論 | 3 | 我々の生活を取り巻く住環境には様々な繊維製品が存在するが、そのひとつとして室内装飾のインテリアテキスタイルを取り上げ、その歴史から製造方法、デザイン、試験方法まで概説し繊維製品全般への幅広い知識を身につけ、物の評価や価値を見分けられる能力の向上を目指す。 | 多くのインテリアテキスタイル商品が溢れ、物の価値が一律では量れない時代、物づくりを改めて見直すことで、物と人の関係性を取り戻し、物の評価や価値を正しく見極め、生活に役立てられる力を養う。 | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | |
| 22UHEE2110 | 人間工学 | 2 | 本授業の目標は、私達が日常生活して行く上で最も身近な道具や設備、環境等と人間との間に存在する諸条件を学び、それらの関係がより適正に結びつく条件を導き出すことにある。さらに、消費者としてモノ選びの際に、人間工学の視点から人とモノとの関係を正しく見つめる能力を養う。 | 人間工学の視点からデザインでき、さらに消費者として適切なモノを選ぶことができる。 | | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | |
| 22UHEE2120 | 人間工学実験Ⅰ | 2 | 人間工学分野で用いられる手法を学び、人間と環境の関わりを心理生理的視点から捉える力を養うとともに、生活環境の物理的要素と人間との関わりについて実験を通して学ぶ。 | 人間をとりまく様々な道具や空間を対象にし、人間工学の分野で用いられる代表的な測定手法を習得する。人間工学の視点から快適で安全な道具や空間・環境をデザインできる。 | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEE3110 | 人間工学実験Ⅱ | 3 | 環境の質を評価するための心理評価法の基礎を学び、データ整理の手法を習得する。 | 日常生活で使用するものの心理的評価を行い、客観的にデータを示す表示法を習得することを目標とする。 | | | | ◎ | | ◎ | | | | ○ | | | |
| 22UHEE2130 | 環境計画Ⅰ | 2 | 室内環境を人間の心理生理から捉えるとともに、快適で機能的な住まいのあり方を理解する。 | 住まいの計画にあたり重要となる環境工学の考え方を理解することを目標とする。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEE2140 | 環境計画実習Ⅰ | 2 | 環境四要素「光」「音」「熱」「空気」からテーマを設定し、生活環境の物理的要素と人間との関わりについて実験を通して学ぶ。 | 生活環境を客観的に捉える手法を身につけることを到達目標とする。 | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEE3120 | 環境計画Ⅱ | 3 | 健康で快適な室内環境のあり方と、省エネルギーに繋がる住まいおよび住まい方の工夫を理解する。 | 健康で快適な室内環境のあり方および住まい方を提案できる能力を養う。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEE3130 | 環境計画実習Ⅱ | 3 | 室内環境の測定法を学び、環境と人体との関係を理解し、快適な室内環境のあり方や住まい方を、省エネルギーの観点も踏まえて学ぶ。 | 室内環境の測定法を身につけ、健康で快適な室内環境および、省エネルギーや環境共生に配慮した住まい方を提案できる能力を養う。 | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|----------|-----|--|--|---|-----|-----|----------|---|----------|---|-----------|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEE3140 | 環境計画Ⅲ | 3 | 生活環境中の問題に取り組む際には、暮らしの中にある物質を物理・化学的に評価していくことも重要であるが、これらだけで人の行動が決定するわけではなく、人が対象をどう捉えてどう感じているかという心理的な面も重要となる。本講義では、生活環境の問題に対する意思決定に人間の心理がどのように影響を与えるかについて学ぶとともに、その評価・分析方法に関して理論を学ぶ。 | 人間の心理や行動を客観的に評価し分析していくための基礎的な知識を学び、生活環境自体の客観的な評価とあわせて人間の主観面の評価を行うことの重要性を理解し、両者を考慮した政策提案のありかたについて議論を行える能力を養うことを目的とする。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| 22UHEE3150 | 環境計画実習Ⅲ | 3 | 人の心理と行動は生活環境を考えていく上で非常に重要な要素であるが、形あるものではないため直接物理・化学的に計測することはできない。しかしながら、適切な方法で客観的なデータに落とし込み定量的に分析していくことで様相を探っていくことは可能である。本講義では、そのための調査計画や手法について学ぶ。 | 人間の心理や行動を客観的に評価し分析していくために必要な調査計画や分析手法を理解し、研究を進めていく際にこれらを使いこなせるようになることを目的とする。 | | ◎ | | | ◎ | | | | | |
| 22UHEE3160 | 環境リスク学 | 3 | 現代社会では暮らしを豊かにするために様々な製品や技術が開発されているが、時としてこれらは人間の健康や生活に悪影響を与えるリスクを有している。安全・安心で、かつ豊かな生活を提案していくには、これらのリスクを適切に評価・管理していくことが必要である。本講義では、そのために必要な知識や方法論について学ぶ。 | 政策決定で用いられているリスク評価およびリスク管理の方法論について知識をつけ、安全で安心な生活環境を提案する能力を養うことを目的とする。 | | ◎ | | | ○ | | ◎ | | | |
| 22UHEE3170 | 福祉生活環境概論 | 3 | 高齢者が慣れた生活環境で住み続け人間的な自立生活を送るために、住環境の整備が今や社会全体の課題となってきた。本講では生活者の視点に立ってあらゆる人達の暮らしを生活の拠点としての住環境という側面から取り上げ、安全・安心で健康的な住環境のあり方について学ぶ。 | 安全・安心で健康的な人間らしい自立生活を送れる環境づくりを考える能力を養う。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |
| 22UHEE3180 | 福祉住環境実習 | 3 | 高齢者などが住環境内での不自由と感ずる点や配慮すべき点などを、実習を通して検討することにより、安全・安心で自立生活を送れる環境について考察し、理解を深める。 | 現在の生活環境での問題点に気づき、安全・安心で人間らしい自立生活を送れる環境づくりを提案できる能力を養う。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHEE3190 | 建築設備 | 3 | 建築内部とその近傍の環境を適切に整え、建築内部の人間の活動を支援する建築設備について、その原理や構成を理解する。 | 建築において、メカニカルな方式や自然を活用する方式などを用いて室内環境を整える種々の方法とその原理についての知識を習得することを目標とする。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |
| 22UHEE2150 | 建築材料学 | 2 | 建築との関わりをふまえた上で、心理面・環境面を考慮した材料の選択を学ぶことで、材料の要求性能を理解する。 | 建築材料の要求性能を理解し、材料選択にあたって適切な判断をする力を養うことを目標とする。 | | ◎ | | | | | ◎ | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | |
|------------|-------------|-----|--|---|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|---|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEE3200 | 建築材料学実験 | 3 | 主要な建築材料に関する実験を通して、材料や測定機器に触れることによって、実験計画と測定法の基礎を習得し、諸材料の性能や特性を明らかにする。加えて、建築構造および建築生産に関する基本的事項の理解を深める。 | 主に主要構造材料（コンクリート、鋼材、木材）について、基礎的な実験手法を通して、性質・性能を理解させる。 | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | | |
| 22UHEE3210 | 建築施工 | 3 | 建築工事の発注から完成に至るまでの各段階の内容について、その概要を論述する。これを通じて一連の建築施工の流れとその技法を理解する。 | 建築（木造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート造）に関する企画、施工、竣工、維持管理までの流れについて理解すること。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| 22UHEK2110 | 建築計画学Ⅰ | 2 | 建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは住宅・集合住宅を設計する上で必要となる計画理論について学ぶ。 | 住宅・集合住宅を中心として、建築計画上で重要となる物の寸法の決定要因や平面計画・動線計画の技法、そしてその背景となる考え方などについて修得することを目標とする。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| 22UHEK3110 | 建築計画学Ⅱ | 3 | 建築の計画・設計には、建築の種類による独自の特性に関する知識や理論を学ぶ必要があり、ここでは学校・商業施設・宿泊施設・オフィス等の計画理論について学ぶ。 | 住宅以外で一般の人々に比較的近い学校・商業施設・ホテル・事務所建築などを計画する上で必要となる建築上の特徴的な事項について修得することを目標とする。 | | ◎ | | | | ◎ | | | | |
| 22UHEK2120 | 住宅設計 | 2 | 生活行為のベースとなる住空間の構成を学んだ上で、設計条件の整理、デザインワーク、製図、模型表現を通じて、基本的な住宅設計のプロセスを習得する。同時に、人体や物品の寸法、各室の機能、空間の関係、外部と内部、プライベートとパブリック、および個別のテーマをふまえた設計力を育成する。 | 立地条件、住み手のライフスタイルなど、様々な設計条件を分析し、核として設定した生活行為を支える住空間からインテリアエレメントまでをトータルに構想・立案できる。立案した住空間を具体的な戸建住宅として設計、提案できる。 | | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | |
| 22UHEK2130 | 建築CAD実習 | 2 | 設計製図の基本は、鉛筆と定規を使って紙の上に美しく、力強い線を描くことである。コンピュータを使って設計をすることが主流の現在でもこのことを忘れてはいけない。CADに使われるのではなく、CADを自分の利用目的にあわせてうまく使いこなせるようになることが目標である。 | 2次元CAD機能を使い、設計図書（平面図、立面図、断面図など）が自由に描けるようになることを目標とする。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHEK2140 | 建築・インテリア設計Ⅰ | 2 | 不特定多数の人々が集まる場所と子供の育成空間の構成を学んだ上で、設計条件の整理、デザインワーク、製図、模型表現を通じて、賑わいを創出するコミュニティ空間と子供の育成に寄与する建築の設計力を育成する。 | 不特定多数の人々に供する空間の標準規格、子供の身体に合わせた空間エレメントの素材、寸法、および子供の行動とそれに対応する空間機能を理解している。賑わいを創出する空間、子供の育成に寄与する具体的な空間を設計、提案できる。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | |
| 22UHEK3120 | 建築・インテリア設計Ⅱ | 3 | 人の住まいとは何かについて、戸建て住宅、集合住宅（学生寮）の設計を通じてより深く理解する。生活空間としての内部空間、建築と周辺環境などに配慮した設計能力を習得する。 | 住まいへの要望、周辺環境の状況などを配慮しながら、望ましい住環境とは何かを考え、それを設計に反映させる。 | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------|----|---|---|---|-----|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | |
| 22UHEK3130 | 都市・建築設計 | 3 | 日常生活に密着している公共建築物を設計する手法を習得する。公共空間としての内外空間のあり方、周辺への影響などに配慮した設計能力を習得する。 | 公共建築物の設計を通じて、その設計手法を習得するとともに、建築の都市との関連、都市および建築における公共性について把握する。 | | ○ | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK2150 | 世界建築史 | 2 | 世界の建築について、その時代、地域の特色と、時間的な展開（歴史）や空間的な拡がり（地理）の概要を理解することを目的とする。 | それぞれの地域や時代による構造や意匠の特徴、あるいはそれらの共通点について理解する。 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK2160 | 日本建築史 | 2 | 日本建築の時間的な展開と、それぞれの時代の特色について理解することを目的とする。 | 日本建築の様式的特徴を理解する。具体的には時代による意匠や構造の違いを理解することを目標とする。 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK3140 | 近代建築論 | 3 | 現代建築の基盤となった近代建築について、時代背景に対する建築家の生き方を学び、その理念・方法を視点に、主要作品の特徴を理解する。 | 近代建築はいつ、どこから始まりどのような課題を持っていたのだろうか。また、インテリア・建築のデザインが、文化や社会における価値を保つには、どのような条件を必要とするのだろうか。これらの問いに対する答として、建築家の理念・方法（考え方）と作品の特質を理解することを目標とする。 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK3150 | 現代建築論 | 3 | 伝統と新しさ、生活ともの、行為と形態など多角的視点から、建築をめぐる空間表現についての考えを深める。 | 美が人を感動させる「目的」を持っているとすると、機能と美の境界線はどこにあるのだろう。また、人の生活と、ものや建築が調和しているとはどういうことだろう。このふたつについて、考える力を身につける。 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK2170 | 建築一般構造 I | 2 | 3つの主要な構造（木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造）を中心に建築物の骨組みや仕上げの構成について基本的な知識を習得する。 | 建築に関する用語を学び、建築全般に対して幅広く理解する。 | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK3160 | 建築一般構造 II | 3 | 建築物の一般的な成り立ち（重力や地震力に抗して建っている原理）と、架構形式と建築造形の関連を理解する。 | 多様な各種の架構方式の基本原理と、それによって形作られる構造物の造形との関係を理解することを目標とする。 | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK2180 | 構造力学 I | 2 | 建築物の設計において最も基礎となる、構造物の力学に関する理論を基礎から体系的に理解する。 | 建築設計における力学的な考え方の基礎を習得する。 | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK2190 | 構造力学 I 演習 | 2 | 「構造力学 I」で習得する構造物の力学に関する理論を、例題の解説と演習問題を解くことでより深く理解する。 | 建築設計において必要な力学的な考え方を習得するための演習問題を自力で解けること。 | | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK2200 | 構造力学 II | 2 | 「構造力学 I」を基本とし、不静定構造物の解法を理解すると共に、「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学的特性を理解する。 | 実際の建築物に近い構造物モデルである、不静定構造物の断面力を求めることができること、および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の安全性の確認ができること。 | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEK2210 | 構造力学 II 演習 | 2 | 「構造力学 II」で習得する「不静定骨組みの応力解析法」について例題の解説や演習問題を解くことで、より深く理解し習得すること、および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の力学特性と部材断面算定手法を例題や演習問題を解くことでより深く理解し習得すること。 | 例題や演習問題で解いた「不静定骨組み」の応力解析が自力で解けること。および「鉄筋コンクリート部材」と「鉄骨部材」の断面の安全性の確認ができること。 | | | ○ | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------|----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|-----|-----------|-----|-----|--|--|--|--|--|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | | |
| | | | | | 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | |
| 22UHEK3170 | 建築法規 | 3 | 秩序ある街や安全で安心して住める建物をつくるために、各種の建築法規があるが、この講義では建築法規のうち主体となっている建築基準法を中心に、どのような規制・誘導が行われているのかを学ぶ。また併せて、建築に関わるものとしての技術者倫理について考える。 | 都市や建物をコントロールしている法律について理解を深めるとともに、主として住宅を設計したり購入する際に役立つ建築法規（ルール）を学ぶ。 | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 22UHEK4110 | 測量実習 | 4 | 測量は、家作り、街作りの様々な分野で使われており、建築では設計、施工、維持管理の各段階で出会う。そこで測量を講義、実習を通して基礎から体系的に学び、また都市計画・防災・マーケティング等の分野に使われているGIS（地理情報システム）や衛星画像を用いたリモートセンシングについても習得することを目的とする。 | 学生が測量器械で得たデータのパソコン解析・GIS・リモートセンシングなどを通して、建築・都市計画に必要な測量基礎的知識および技術とその利活用法を習得する。 | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | |
| 22UHEU2110 | 景観論 | 2 | 景観の分析、保全、整備、創造のために要求される基本的考え方および具体的なデザイン技法、法律などの基礎知識を習得すること。また日本各地や世界各国の景観や街並みを紹介していくことで、建築物だけでなく都市環境のデザインや街づくりへ視野を広げる。 | 風景、景色、景観という視点から生活や建築を理解できるようにする。 | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 22UHEU2120 | まちづくり論Ⅰ | 2 | まちづくりについて、基礎的な内容を学習し、その理念や意義、これからのまちづくりのあり方等について理解を深める。 | まちづくりについて、実践し得る基礎的な知識を習得する。 | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 22UHEU3110 | まちづくり論Ⅱ | 3 | まちづくりについて、基礎的、および、応用的な内容を学習し、その理念や意義、これからのまちづくりのあり方等について理解を深める。 | まちづくりについて、実践し得る応用的な知識を習得する。 | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | | |
| 22UHEU2130 | フィールドデザイン演習Ⅰ | 2 | 生活の総体としての衣食住からみたまちについて理解を深める。まちを構成する衣食住の要素を対象に調査・分析し、生活文化としての衣食住とまちの深い関係性を読み解きながらまちの居場所を提案する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちの持つ様々な特質をその背景や意義などを衣食住の観点から理解する。 ・空間特性や現状を分析し、衣食住から見たまちの魅力を把握する。 ・まちの将来像を見通した上で、魅力の増進につながる仕組みや空間を提案する。 | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | |
| 22UHEU2140 | フィールドデザイン演習Ⅱ | 2 | 地域社会の課題や地域の資源を発見・分析し、魅力あるまちを再生・創造するための手法・能力を習得する。特に、暮らし（居住環境）と公共空間からまちを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅地の成り立ちや現状を理解する。 ・空間特性や現状を分析し、地域課題や魅力を把握する。 ・まちの将来像を見通した上で、課題解決や魅力の増進につながる仕組みや空間を提案する。 | | | | | | ◎ | ○ | | | | | | | |
| 22UHEU3120 | フィールドデザイン演習Ⅲ | 3 | 地域社会の課題や地域の資源を発見・分析し、魅力あるまちを再生・創造するための手法・能力を習得する。地域との協働・連携や、調査・分析・企画・提案・実践の一連のプロセスをとおしてまちづくりをとらえる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの手法やプロセスを理解する。 ・空間特性や現状を分析し、地域課題や魅力を把握する。 ・まちの将来像を見通した上で、課題解決や魅力の増進につながる仕組みや空間を提案する。 | | | | | | ○ | ◎ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---------------|-----|---|---|---|-----|----------|-----|----------|---|-----------|---|--|--|--|--|--|--|---|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | | | | | | |
| 22UHEU2150 | フィールドデザイン特別演習 | 2 | 地域社会の課題や地域の資源を発見・分析し、魅力あるまちを再生・創造するための手法・能力を習得する。特に、農村・山村・漁村の景観や空間構成、生業のしくみから地域を考える。 | ・農村・山村・漁村の成り立ちや現状を理解する。 ・空間特性や現状を分析し、地域課題や魅力を把握する。 ・まちの将来像を見通した上で、課題解決や魅力の増進につながる仕組みや空間を提案する。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 22UHEU2160 | フィールド・サーヴェイ実習 | 2 | 積極的に街へ出かけ、フィールドワークを行うために、その技法や方法と、その時に必要となる基本的な考え方について講義する。 | 方向感覚が研ぎ澄まされ、地図なしでどこでも簡単に歩けるようになる。 | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | | ○ |
| 22UHEU2170 | プレゼンテーション演習 | 2 | プレゼンテーションに求められるデザイン手法、論理的整理、伝達技術の基礎を学び、プレゼンテーションの表現能力・手法を習得する。 | アイデアをビジュアル的に表現する基本を身につける。プレゼンテーションするための表現能力を演習を通じて身につける。 | | | ○ | | ◎ | | ◎ | | | | | | | | |
| 22UHEU3130 | 造園学・同演習 | 3 | 人が社会の中で、快適に生活でき、且つ自然や文化がよりよく保全・保護されることを目的として、造園学を学ぶ。緑やオープンスペースを取り入れた環境改善を推進するための手法や技術を中心に学習する。 | 造園学の基礎として、日本や西洋の庭園の歴史を学ぶ。また、実際に庭園や緑地を見学したり、小庭園の計画や設計を行ったりすることにより、身近な環境改善のための知識や技術を高める。 | | | | | | ◎ | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEC1280 | 家庭生活論 | 1 | 家庭生活を知らない人はいない。この世に生を受けてから死ぬまでの間、誰でも毎日経験している学問、それが家庭生活である。本来、日常知で済んでいたことをなぜわざわざ大学で学ぶのかと言えば、現代人にとって家庭生活が自明のものではなくなってしまったからだ。家庭生活を支える二本の柱、家族も家屋も、いまや個人が解決しなければならない対象として私たちの前に立ちはだかっている。いわば人間として生きる上での戦略的拠点—家庭について理解を深めることが家庭生活論の目的である。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 次の3つのことを目指す。 1. 家庭生活について知ること、即ち、自分自身とは何かを理解すること。 2. 個人の人生に必要な物語を身の回りの日常から紡ぎ出す視点を身につけること。 3. 家庭生活をデザインし、実践するための技法について考えること。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | ◎ | | | | | | | ◎ | | | | | | | |
| 22UHEC3130 | 保育学 | 3 | 子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会的知識を身につける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中高教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。 | 保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力量を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。 | | | ◎ | | | | | ◎ | | | | | | | |

| 科目番号 | 科目名 | 学年 | 科目目的 | 到達目標 | ディプロマ・ポリシーの項目番号 | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|------------|-----|--|--|---|-----|-----|----------|--|----------|---|-----------|---|--|--|--|--|--|---|
| | | | | | 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 1. 知識・理解 | | | 2. 技能・表現 | | 3. 思考・判断 | | 4. 態度・志向性 | | | | | | | |
| 1-1 | 1-2 | 1-3 | 2-1 | 2-2 | 3-1 | 3-2 | 4-1 | 4-2 | | | | | | | | | | | |
| 22UHEC1310 | 海外の生活環境研修Ⅱ | 1 | 国際化がますます進む昨今において、国際感覚を身につけることは必至である。本科目では、ヨーロッパでの建築やインテリアおよびファッションの研修に加えてヨーロッパ諸国の歴史や生活文化に触れて国際的な知識・感覚を深めることを目的とする。 | グローバルな視点から物事を考えられるようになることが第一の目標であり、また、自分の専門分野における海外の最新情報を現地で実際に体験し、知的刺激を受け、視野を広げることが第二の目標でもある。 | | | | | | | | | | | | | | | ◎ |
| 22UHEC3140 | 卒業基礎演習 | 3 | 4年次の卒業研究を行うにあたって、その基礎を身につけることを目的とする。 | 卒業研究の基礎となるような知識、技術、研究対象へのアプローチの手法などを習得することを目標とする。 | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | |
| 22UHEC4140 | 卒業研究 | 4 | 大学での教育・研究の総仕上げとして、生活環境学における各分野の課題を発掘し、調査・研究を遂行し結論に到達する過程を体験し、問題提起と課題解決の方法および結果の発表の仕方を身につける。 | 情報の収集・整理の能力、分析・考察の能力、提案力・創造力を高め、総合的な真の実力を身につける。 | | | | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | | | | | |